

2022年度「TKU進一層賞」受賞者一覧

I. 学芸部門

表彰内容	学部・学年	氏名	分野	論文・作品名
学長賞 奨励賞	経済3年	和田 燎雅	テーマ論文	マルチ商法の実態
父母の会会長賞 佳作	経済3年	新井 陵太	紀行文	一人仮想海外旅行
父母の会会長賞 佳作	経済3年	和田 燎雅	評論、エッセイ	～コロナ禍でも海外に行った気分になりたい。いざ国境の町へ。～
父母の会会長賞 奨励賞	現代法3年	小柳 風我	評論、エッセイ	インターネット空間と現実における協力の実現可能性
父母の会会長賞 優秀賞	コミュニケーション3年	竹田 雪美	文芸作品等(小説、映像作品他)	不便な社会を愛するということ
父母の会会長賞 準優秀賞	現代法3年	小岩井 芽依	文芸作品等(小説、映像作品他)	リモートフレンド
				望みを叶えるバスル

II. 資格取得部門

表彰内容	学部・学年	氏名	分野	区分
学長賞、父母の会会長賞	経済4年	木村 元昭	会計	公認会計士
	経営3年	山田 力		
	経済3年	小林 和生		
学長賞、葵友会会長賞	卒業生	一花 花奈		
	卒業生	江波 沙也佳		
	卒業生	小杉 優斗		
	卒業生	佐々木 涼我		
	卒業生	葛本 涼太		
	卒業生	大滝 康平		
	卒業生	上田 恵理		
	卒業生	杉井 惇		
	経営4年	丹 建太		
	経営3年	一條 匠		
学長賞、父母の会会長賞	経営3年	駒村 省伍		日商簿記1級
	経営3年	大隅 愛衣		
	経営3年	大町 駿斗		
	経済3年	下川 弥也		
	経済3年	小林 和生		
	経済3年	高橋 森之祐		
	経済3年	日置 大輔		
	経済3年	鈴木 響太		
	経営2年	田村 京海		
	経営2年	清水 優希		
	経営2年	大西 敏幸		
	経営4年	丹 建太		
	経済4年	木村 元昭		
	経営3年	山田 力		
	経営3年	大隅 愛衣		
	経済3年	小林 和生		
	経営4年	坂岸 知佳		
	経営3年	松下 迅		
	経営3年	駒村 省伍		
	経営3年	横田 龍		
	経営4年	劉 柏慧		
	現代法4年	田村 由依		
	現代法4年	村田 魁斗		
	現代法4年	齋賀 優香		
	現代法3年	木田 陸空		
	経営4年	渡部 恒我		
	経済4年	テイ チンسن		
	経済3年	スレスタ アバヤ		
	経済3年	田中 敦貴		
	経営2年	野口 勇水		
	経済2年	田 靖淳		
	経営1年	目黒 勝大		
	経営4年	渡邊 龍一		
	経営4年	植松 美生里		
	経営4年	四宮 映		
	経済4年	助川 瞳		
	経済4年	中井 佑輔		
	経済4年	林 亜未		
	現代法4年	御野 一輝		
	経営3年	浦田 和希		
	経営3年	間 一貴		
	経営3年	福田 安然		
	経済3年	三石 詠生		
	経済3年	王 子セン		
	経済3年	川島 超		
	経営2年	堀之内 結菜		
	経営2年	荊 檣テイ		
	経営2年	野口 勇水		
	経済2年	ニュ ティチャン		
	経営1年	ソエギアルト マリオ		
	コミュニケーション1年	石井 ケヴィン		
	経済3年	スレスタ アバヤ		
	経済1年	渋谷 悠太		
	コミュニケーション2年	江原 裕基		
	経営4年	遠藤 千馬		
	経済4年	武田 歩果		
	経済3年	重松 直樹		
	経済3年	平野 宇教		
	経営2年	大熊 一輝		
	経営2年	荊 檣テイ		
	経営2年	荊 檣テイ		
				英検準1級
			応用情報技術者	
			基本情報技術者	
			情報セキュリティマネジメント	

表彰内容	人数	分野	区分
CSC運営委員長賞	55	会計	日本商工会議所簿記検定2級
	70		日本商工会議所簿記検定3級
	11	法律	法学検定スタンダード
	2		ビジネス実務法務検定2級
	15		法学検定ベーシック
学長賞	9	英語	ビジネス実務法務検定3級
CSC運営委員長賞	23		TOEICテスト600点以上
	9	情報	ITパスポート
	26		MOS(ワード)
	25		MOS(エクセル)
	19		2級ファイナンシャル・プランニング技能士
	13	その他	宅地建物取引士
	2		一種証券外務員
	33		3級ファイナンシャル・プランニング技能士
	19		秘書技能検定2級

Ⅲ. 課外活動部門

1. 体育会分野

最優秀団体賞(学長賞)	体育会(団体)		毎年好成績を残しており、今年度は第100回全日本選手権大会で男子舵手なしクォドルブル2位、男子軽量級舵手なしベア3位、女子軽量級ダブルスカル5位、男子軽量級ダブルスカル8位、第49回全日本大学選手権大会で男子フォア3位、男子ダブルスカル4位、男子クォドルブル5位など、多くの種目で好成績を挙げた。
	端艇部		
最優秀個人賞(父母の会会長賞)	体育会端艇部(個人)		第100回全日本選手権大会に出場し、男子軽量級舵手なしベアで総合3位の好成績を取めた。また、第49回全日本大学選手権大会では男子フォア総合3位に貢献した。
	現代法3年 経済4年	渡邊 幸太郎 山崎 太郎	

2. 文化会分野

なし

3. その他の学生活動分野

優秀団体賞(学長賞)	国際交流・多文化共修チューター		国際交流・多文化共修チューターとして本学の国際交流活動の発展に大きく貢献した。今年度は10回のイベントを開催し、延べ472名が参加した。 チューターの活動は大きく3つの分野に分かれる。1つ目は学内における国際交流活動の推進で、本学在籍の留学生と日本人学生との交流イベントの企画・運営を行い、参加者に対し国際交流の機会を提供した。 2つ目は学外団体と連携をした多文化理解の推進で、本学協定校とのオンラインイベントの企画・運営、協定校からの特別聴講生歓迎会、外部団体(白梅学園高等学校)と連携した対面イベントを企画、本学内の学生・留学生と外部団体との交流を促進し多文化理解の機会を提供した。 3つ目は本学内の国際交流活動に関連する団体・活動をネットワーク化し、学内外へとアピールする場の構築をした。今年度はマルチカルチュラル・フェスティバルを規模を拡大して開催した。外部団体としてTAC協定校から3団体を招き、TAC学生間の交流にも大きく貢献した。 今年度も制限された中での活動となったが、チューター達は国際交流・多文化理解活動を発展させるために、週1回の定例会議以外にも多くの会議を重ね、過去に比べて多くの、そして魅力的な企画を発案・実施し、多くの参加者を得られるイベントを成功させた。
	経営4年	小原 雄登	
奨励賞(学長賞)	TKU Unlimited		身近にある社会課題を取り上げ、学生ならではの等身大のメッセージを発信活動を行っている学生団体。CDP生のみ所屬可能で、毎週授業外で活動を行っている。 その中の1つとして、食品ロスを取り上げて活動を行っているプロジェクトがあり、プロジェクトをきっかけに”食品ロス”の視点を踏まえてサーキュラーエコノミーについて考えるパネル展示を行った。 団体内の他のプロジェクトの学生とも協力をして、団体全員で1つの課題に取り組む初めての経験だった。これまでは、フードドライブや食品ロスに関心のある地域の方とこれまでのことや現状を理解することを重視していたが、今回の活動を通して、未来へつなげるために自分たちが出来ることを考えるきっかけを作ることが出来た。
	コミュニケーション3年	福澤 愛衣	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	経営4年	柳下 愛菜	工学院大学による壁フェスというコンペティションがあったことを進一層賞の発表を通して他の学生にも知ってもらい、自分の専門分野ではないものにも積極的にチャレンジして学んでいく勇気や、異分野とのコラボレーションをしてみようと思うきっかけになれたらと思い、応募した。 作品(作品名「花唇emotions」)ではタッチデザイナーというプログラミング言語を一から勉強し、キーボードのボタンを押すことで壁を動かすことができるシステムを組み、発表した。工学×アートのコンペティションのため、文系の私が参加するのは恐れ多かったが、マーケティング×工学という異分野のコラボレーションをさせたアイデアが評価され、審査員特別賞をいただいた。大学で学んだマーケティングや、取得したITパスポートや色彩検定、軽音楽部や放送研究会での経験を大学生生活の締めくくりとして表現することができた。
奨励賞(父母の会会長賞)	経済3年	津村 翼	「総走行距離2520km！日本縦断！鹿児島から北海道宗谷岬の自転車旅」 8月19日から9月9日の22日間で鹿児島県鹿児島中央駅から北海道宗谷岬まで先輩と二人で自転車での完全自走を達成した。この挑戦をしようと思い立ったきっかけはYouTubeで見かけた自転車で日本一周をする女性ライダーの投稿で、たくましくソロで旅を続ける彼女の投稿に感化され、私も大学生活で他人にはできないような何か大きな目標を達成したいと思い、趣味として続けサークルにも所属している自転車を使っての日本縦断を決意した。道中では台風や機材トラブルなど多くの壁にぶつかったが、その度に一歩ずつ乗り越え一度も電車や車に頼ることなく、2520kmの道のりを自転車で走破できた。 道中では様々な人々との出会いがあり、「一期一会」が何たるかをこの旅の中で学んだ。この日本縦断を成し遂げたことで大きな自信が身についた。平凡な大学生である私でも日本を縦断したという感動と達成感から「挑戦することの大切さ」、「為せば成る」という人生の教訓を得た。何事にもチャレンジ！という心持ちで今では自転車だけでなく、学業や就職活動にも果敢に手を伸ばすことが出来るようになった。

Ⅳ. ゼミ学外活動部門

1. 社会貢献活動等

優秀団体賞(学長賞)	小木 紀親ゼミナール		①ゼミ企画の国分寺産ブルーベリーを使った「ぶんぶんキャラバリー」及び「ブルーベリージャム」が発売され、SDGs及び社会・地域貢献活動を推進し、本学を広く知らした。本企画は、鈴木栄光堂×JAむさし×小木ゼミによる新商品のお菓子企画・制作・販売プロジェクト(パッケージもすべて企画)。マスコミにも取り上げられ、本学の対外的な活動や学生募集に大きく寄与した。 ②葵祭で、こくべじを使ったじゃがバターと、上記キャラバリー等の販売を行い、模擬店大賞(グランプリ)を獲得し、本学の社会・地域貢献活動に寄与した。 ③その他の活動でも国分寺市の活性化のために尽力し、広く一般に本学を知らしめ、社会・地域貢献活動を推進した。具体的な活動は以下のとおり。 ＊国分寺観光協会・第43・44回こくぶんじ写真コンクール協賛・審査・表彰 ＊ぶんぶんウォークへの全面協力 ＊SNSを使った国分寺市活性化の発信 等 ④日経円ダービーにおいて前半の部で全国20位にランクインした。 ⑤多摩大学アクティブラーニング発表祭へ招待ゼミとして発表を行い、社会・地域貢献活動を果たし、本学を知らしめた。小木ゼミが手掛けるコラボ活動(国分寺物語、TFT、お菓子&コスMPJ、知財活用コンテストなど)を発表し好評を博した。 ⑥NAGAOKAとのコラボ「こんなコスめあったらいいなPJ」が始動し、産経新聞等マスコミに取り上げられ、広く本学を知らしめた。
	経済3年	横内 健人	
優秀団体賞(学長賞)	鈴木特別ゼミ		「実社会における問題解決力を鍛える」を目標に、国分寺市の地域活性に尽力した。 ①こくめし(国分寺で食べなくなる飯) こくめしとは、「国分寺×飯」の訳語であり、毎年変わる共通商材テーマ(井)に沿って、各店舗に個性光るオリジナルメニューを提供いただくプロジェクト。今年度は、3店舗回ると1000円分の食事券と交換できるスタンダラーを実施し、市民の皆様にもバイロールを根付かせる契機となった。歴代最多となる17店舗に参加いただきイベント規模の拡大を達成。それに伴い、より一層の価値を地域に提供できた。 ②東経大名物パン開発プロジェクト キニオン東経大店の学内認知度向上と店舗の活性化を目的とし、学生主体でオリジナルパンの共同開発とイベント活動を行うプロジェクト。今年度は「もっちりチーズチョコパン」を開発し販売期間中は連日即完売という快挙を成し遂げた。 以上の二つのプロジェクトを進め、最終的に③国分寺マルイでの課外販売活動を行った。企業とのコラボイベントはゼミ史上初の快挙である。 こくめしでは累計170食、用意したものすべてを完売、名物パンプロジェクトからは学生考案の「もっちりチーズチョコパン」を累計90個販売した。 従来は学内にあるキニオンや市内に散らばる飲食店でのイベントにとどまっていたが、全国的に知名度があり、市民の方が多く利用する国分寺駅構内にある、国分寺マルイでのイベントが実現したことで、例年以上に市民の皆様と密接にかかわる機会をつくることができた。
	コミュニケーション3年 経営3年 経済3年	荒井 優太 清水 千聡 今井 愛菜 津村 翼	
優秀団体賞(学長賞)	藤井特別ゼミ		イベントの開催やコンテンツの創造を通じて、学生やOBに対して、愛校心の向上や学生の学びの機会の創出、SDGsの啓蒙などに取り組んだ。 ①Let's浴衣ですたでの開催(7月) 浴衣で授業を受講、打ち水、落研と連携した催しなどを通じて、キャンパス内の活気づけやSDGsの啓蒙に貢献した。 ②健康フェスタの開催(12月) 大学の学生相談室や医務室のご協力の元、栄養士と1対1で食生活の相談が出来る「食生活相談会」やアルコールパッチテストなど、学生の健康意識向上に貢献した。 ③東経大ウインターフェスタの開催(12月) イルミネーションの点灯や剪定枝を使ったリース作り、空き瓶を使ったスノードーム作り、映画上映会、校内装飾など多くの企画を行い、学生の愛校心向上や約10年使われていなかったイルミネーションや大学内で出た剪定枝を使用することでSDGsの目標の12「つくる責任 つかう責任」の達成に貢献した。 ④その他、ホームカミングデーのサポート、学習センターの催しサポート 10月28日に開催されたホームカミングデーのオンライン配信の司会進行を7時間にわたりゼミ生3名が行った。オープニングおよびエンディング動画、大学キャンパスのメタパス空間(製作過程)をお披露目するなど、OBOGの方に現役生の取り組みを紹介することで、OBOGと現役生との絆づくりに貢献した。 また、学習センターの催しにはほぼ毎回ゼミ生が参加し、広報を支援するなどして、ゼミ活動を越えて学内の取り組みの促進に貢献した。
	経済3年	川尻 步唯	

2. 学外コンクール等入賞

最優秀団体賞(学長賞)	石川 雅也ゼミナール		2022年1月20日～2023年1月19日までの期間において、ゼミでの研究活動に積極的に取り組んだ結果、以下のような成果を上げることが出来た。 ・第22回日経STOCKリーグにて、3グループが入選 ・第18回日銀グランプリにて、1グループが最優秀賞、1グループが奨励賞を受賞 以上は、金融分野における大学生対象のレポートコンテストの中でも、権威ある組織の主催による多くの大学が参加する大会における成果であり、対外的に非常に大きな成果であると考える。 日銀グランプリは、石川ゼミとしては第13 回大会(2017 年度)から6年連続での決勝大会に進出。過去実績としては、2014 年度の優秀賞1 本と敢闘賞・特別賞同時受賞1 本、2016 年度の奨励賞1 本、2017 年度の敢闘賞1 本と奨励賞2 本、2018 年度最優秀賞1 本と奨励賞1 本、2019 年度最優秀賞1 本と奨励賞1 本、2020 年度敢闘賞1 本、2021年度敢闘賞1本に続く7 度目の受賞となる。
	経済3年	養部 恭伽	
優秀団体賞(学長賞)	若狭 彰ゼミナール		国際法模擬裁判大会 Japan Cup 2022は、名門大学も多く出場する日本を代表する模擬裁判大会である。若狭ゼミは、東経大として初めてこの大会に参加し、敢闘賞という結果を残した。新型コロナウイルスの流行により大学生活の制限を余儀なくされた世代であるが、このような大学に入った意味を見出し辛い状況でも、学友たちと切磋琢磨することを忘れず、国際法を学び始めて日が浅い中で協力し、各々が懸命に課題に取り組んだ結果がこの敢闘賞である。 ゼミ生にとって、自粛で止まっていた自身の成長を再開させるきっかけとなり、大学に入学して良かったと感じられた経験となった。 以上から、人間の成長を実感し、本学の理念の「進一層」を体現できたと考え、応募する。
	現代法3年	滝沢 恭史	
優秀団体賞(学長賞)	金 鉦玉ゼミナール		12月に行われた第7回アカウンティングコンペティションに参加し、これまでの研究成果の発表を行った。 全部4チームが参加したが、金鉦玉ゼミナールAチームが学術的研究分野の予選を勝ち抜き、決勝に進出、「ブロック優勝」を果たした(39チーム中6チーム)。このチームは「人員整理」をテーマとして延べ120社の人員整理を識別した上で、人員整理のアナウンスが株価に与える影響について研究を行った。 現在まで会計分野で研究されていなかったコロナ禍での人員整理のアナウンスと企業価値の関係を明らかにし、そこから人員整理のアナウンスに関して企業の戦略的な開示行動の可能性を見出した内容であった。 さらに、CチームとDチームにおいても、実践的研究分野で特定の審査項目において優れた成績を収めたことから「審査員特別賞」を受賞した。(なお、アカウンティングコンペティションについては、金ゼミとして4年連続の受賞となる。)
	経営3年	小幡 莉央	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	青木 亮ゼミナール		5月2日～9月16日に開催された大学生観光まちづくりコンテスト2022福島復興ステージに参加。観光庁による予選審査を通過し福島県Jヴィレッジで行われた本戦発表会に臨んだ結果、以下のような成果を上げた。 優秀賞、審査員特別賞「福の海賞」の受賞 全国47チーム中5位に入賞。また、コンテスト後に主催の公益社団法人福島相双復興推進機構様に召集され、フィールドワークで交流を深めた福島県檜葉町・広野町の町長や地域政策担当者檜葉町のまちづくり会社の方々に改めてプレゼンする機会をいただいた。この訪問は地元新聞社の福島民報、福島民友に取り上げられた。今回のテストは観光・まちづくり分野のコンテストの中でも権威ある主催による大会であったため、今回の受賞によって他大学・地方自治体関係各所に本学を知らしめ、社会・地域貢献活動に尽力することができた。
	経営4年	八鉦 賢太	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	小山 健太ゼミナール		「IB-インカレ2022(第12回)」(12月)において最優秀討論賞を受賞した。IB-インカレとは、大学のゼミナールにおける研究成果を学術論文形式で発表し、チーム対抗で優勝を競う研究報告の全国大会である。 私はコミュニケーション学部小山ゼミの一員として出場したが、ゼミ(チーム)としては惜しくも受賞はできなかった、しかし、私個人としては「最優秀討論賞(個人賞)」を受賞することができた。最優秀討論賞は、決勝の質疑応答においてもっとも活躍した個人1名に、質問の数と内容を審査の上、授与されるものである。 私が今回受賞できた理由を考えると、二点あるように思う。一つ目は、各プレゼンテーションに対し、きれいな英語でわかりやすく質問した点である。 この大会はグローバルなフィールドで徹底的に考え抜いて実践することに重きをおいており、実際に海外での現地調査、英語論文の執筆など、「国際」の色が強い大会だった。 また、決勝進出チームのプレゼンはすべて英語で行われた。そのため、私が「英語」で質問したことが受賞に至った要因の一つだと思われる。私は英検準1級を取得しており、学内でもロボティオに日常的に通うなど、英語力向上に努めてきたため、その努力の成果が実ったと思う。二つ目は、質問内容を熟考した点である。発表内容の論理的な矛盾など、できるだけ本質的なことを質問するように努力した。また、回答内容が質問に十分に答えていないと思われた場合は、さらに追加の質問をして討論を盛り上げた。こうした行動は自分にとって非常に困難な挑戦であったが、だからこそ積極的に取り組み、結果的に審査員の先生方から評価をいただいたことを嬉しく思っている。
	コミュニケーション3年	吉原 弘貴	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	小木 紀親ゼミナール		西武信用金庫主催「知財活用スチューデントアワード 2022」の本選大会(12月8日)にて、小木ゼミ「チームG」チームによる「簡単プライバシー保護！フラットバック君」(イトーキ・フラットバック家具)の提案・プレゼンテーションが優秀賞(準グランプリ)を受賞し、広く一般に本学を知らしめたため。 本大会は、西武信用金庫の法人顧客が保有する知的財産を活用した商品・サービスのアイデアコンテストである。当初、東京経済大学からは4チームがエントリーしたが、主催者側から学内選抜(2チームに絞る)を求められ、10月末の学内選考を経て2チームに絞られたうえで、本選大会に臨むことになった(小木ゼミ2年生2チームが本選出場)。 その後、本選大会前の中間発表会(11月中旬)を経て、2022年12月8日に7大学全12チームによる決勝大会の提案・プレゼンテーションで、「チームG」(東経大・小木ゼミ)による「簡単プライバシー保護！フラットバック君」(イトーキ・フラットバック家具)が優秀賞(準グランプリ)を獲得するに到った。 同大会は10年目を迎える大会だが、本学の入賞としては21年度(現3年生)に引き続き2年連続、優秀賞(準グランプリ)は6年ぶりの快挙となる。
	経営2年	若泉 もも	